

土を愛し、尊重する自然農法



発行所

京都市左京区
吉田神楽岡町3

世界救世教聖明教会

郵便番号606-8311
電話075(771)2022番

明主様の御教え

各面の内容

2/3面	初代会長先生 御教えの研究
3面	地上天国祭
4面	お蔭ご奉告 林政樹様
5面	講義ノート 栗田光均様
5/6面	お蔭ご奉告 大谷大紀様
6/7面	お蔭ご奉告 松村俊宏様
7面	お蔭ご奉告 豊原龍様
8面	れいめい俳壇

自然農法に関する御教え

(一) 自然農法の原理

自然農法の根本は、土そのものを生かす事である。土を生かすという事は、土壌に人為肥料の如き不純物を用いずどこ迄も清浄を保つのである。そうすれば土壌は邪魔物が無いから、本来の性能を充分発揮し得る。(榮七九)

自然農法の原理は飽迄土を尊び、土を愛し、汚さないようにする事である。そうすれば土は満足し、喜んで活動するのは当然である。人間でいえば障害を受けないから混濁たる健康者となるようなものである。(榮一六三)

火水土の三要素が農作物を生育させる原動力としたら、日当りをよくし、水を充分供給し、浄土に栽培するとすれば、今迄に

ない大きな成果を挙げ得る事は確かである。(榮七九)

すべて如何なるものでも、その用途というのは神様が決めてあるのです。それを人間が人間の智慧で外のところに使うというその事が非常に不自然なのです。反自然です。だから一時は良くても結局駄目になります。そういう事の解釈がみんな違うのです。これは唯物理学の間違いです。そういう様なかた、根本を知ればいいのです。だから土というものは、米を育てるために神様が作られたのだから、そのままでやればいいわけです。それをいろんな物を入れるという事は、それだけ土を穢すという事になります。土が働こうとするのを働かせない様にして、とれない様にするのですから、

これほど間違った事はありません。(教一九・四七)

(二) 土について

抑々土とは造物主が人畜を養う為に、作物を生産すべく造られたものである以上、土其ものの本質は肥料分があり余る程で、言わば肥料の塊りといつてもいい位のものです。(榮一四二)

抑々太初造物主が人間を造るや、人間を養うに足るだけの食物を生産すべく造られたものが土であるから、それに種子を播けば芽を出し、茎、葉、花、実というようにに漸次発育して、芽出度く稔りの秋を迎える事になるのである。してみればこの米を生産する土こそ素晴らしい技術者であり、大いに優遇すべきが本当ではなからうか。勿論これが自然力であるから、この研究こそ科学の課題でなくてはならない筈である。(榮二四五)

本来土と言うものは、霊と体との二要素から成立っているもので、体とは土其もので、霊とは目には見えないが、土の本体である。(榮一四二)

土を尊び土を愛する事によって、土自体の性能は充分発揮される。それには何よりも土を汚さず、より清浄にする事であって、これによつて土は喜びの感情が湧き活潑となるのは言う迄もない。(榮二四五)

作物を作れば作る程土は良くなる。人間で言えば働けば働く程健康を増すのと同様

で、休ませる程弱るのである。(榮七九)

土壌は作物の種類によつて、其作物に適応すべき性能が自然に出来る。(榮七九)

肥毒のない清浄な土で稲なら稲を作る、土の方で稲に適するような成分がわいて来るのです。それは実際神秘な話です。そこで年々土自体に特種な性能ができ、その性能がだんだん発達してゆくのです。ですから素晴らしい良い土になってゆくのです。という事は素晴らしい肥が効いた土になるのです。肥と言っても今までの肥とは違って、良い意味のもので、つまり神様の作った肥で、それが増えてゆくのです。(教二七・三六)

(三) 自然力について

この自然力とは何であるかという、これこそ日、月、土、即ち火素、水素、土素の融合によつて発生したX即ち自然力である。そうしてこの地球の中心は、人も知る如く火の塊りであつて、これが地熱の発生原である。この地熱の精が地殻を透して成層間までの空間を充填しており、この精にも霊と体の二面があつて体の方は科学でいう窒素であり、霊の方は未発見である。それと共に、太陽から放射される精が火素で、これにも霊と体があり、体は光と熱であり、霊は未発見である。又月から放射される精は水素で、体は凡ゆる水であり、霊は未発見である。というようにこの三者の未発見である霊が抱合一体となつて生まれたものがXである。これによつて一切万有は生成化育されるのであつて、このXこそ無にして有であり、万物の生命力の根原でもある。従つて農作物の生育と雖もこの力によるのであるから、この力こそ無限の肥料である。故にこれを認めて土を愛し、土を尊重してこそ、その性能は驚く程強化されるので、これが真の農法であつて、これ以外に農法はあり得ないのである。故にこの方法を実行する事によつて、問題は根本的に解決されるのである。(榮二四五)

明主様御真筆 神之文化



(次号に続く)

自然力 深い神秘的御力

初代会長

多田 光行

私共は日々神様から食物を御恵み頂いているわけですが、私共は新穀感謝祭で心から感謝のお祈りを捧げさせていただきます。ことに私共は明主様から真の食物を生産する方法として、自然農法を御教え頂いているわけですが、

自然農法と申しますと、最近ではテレビその他でも、色々取り上げられているわけですが、現在世間で取り上げられておられるのは、どちらかと申しますと有機農法でございます。つまり化学肥料とか、あるいは農薬だとか、そういうものは使わないけれども、色々な有機質、糞だとか堆肥だとか、鶏糞だとか、そういうものを使う農法を、世間では自然農法というふうに言っておられるようでございます。しかし明主様が説いて下さっているおられる自然農法はもともと根本的に違うわけでございます。その違いというものを私共はしっかりと掴まさせていただきます。お聞きいただければいいのではないかと申すのでございます。

明主様の説かれた自然農法は、これから将来の真の農法、これから私共人類が食物を生産していく上において一番基本になる考え方をお示し下さっているのではないかと申すのでございます。これは私共の真の食物を生産するということの解決だけではなくて、今全世界で色々問題になっております。環境汚染の問題、あるいはエネルギー資源の問題、そういう問題をも根本から解決できる作物の生産方法であるわ

環境汚染の問題や エネルギー資源を 根本から解決できる

でございます。この間もちょっと申し上げましたけれども、先述で将来の農法というのは、どういうふうに進むべきかということの色々研究しておられる農学者の方、西ドイツから日本にいられた方、日本に有機農法を初めてしまして、色々な農法を調査にいられたわけ

でございますが、もう一つ自分の気持ちにしっかりと、非常にがっかりしておられた時に、明主様の自然農法の事が最近大学で色々研究されているということを耳にされまして、研究されておられる大学を訪問されました。色々お話を聞かれたようでございます。そこで初めて、自分の気持ち非常に納得がいったと言って帰られたようでございます。

そのようにだんだんと明主様の説かれた自然農法が正しく理解されるというふうになってきていることは大変ありがたいことでございますけれども、そのために、私共自身がしっかりと掴まさせていただきますことが大切だと思えます。そこで、自然農法に関する教えを幾つか抜粋させていただきます。一緒に拝読させていただきます。

神様が、動物などを造られました時に、その生命を維持するために食物が必要なのでございます。その食物を生産する、作り出す役割を土に与えておられるわけでございます。もちろん土にはその外の役割もあるわけでございます。道路の役をする土もございまして、あるいは壁土になる土もございまして、それから焼き物、陶器になる土もあるわけでございます。そのように土にも色々役割はございまして、神様から与えていただいた一番大きな土の役割の一つが、人間をはじめとして、動物の食物を生産するという役割であるわけでございます。その役割と同時に、その役割を果たすに必要な能力も与えていただい

ているわけですが、もう一つ自分の気持ちにしっかりと、非常にがっかりしておられた時に、明主様の自然農法の事が最近大学で色々研究されているということを耳にされまして、研究されておられる大学を訪問されました。色々お話を聞かれたようでございます。そこで初めて、自分の気持ち非常に納得がいったと言って帰られたようでございます。

そのようにだんだんと明主様の説かれた自然農法が正しく理解されるというふうになってきていることは大変ありがたいことでございますけれども、そのために、私共自身がしっかりと掴まさせていただきますことが大切だと思えます。そこで、自然農法に関する教えを幾つか抜粋させていただきます。一緒に拝読させていただきます。

土の能力を十分に 発揮させるのが 自然農法

持っているわけでございます。しかし今までのように肥料をやつてしまうと、土が働かなくなってしまうわけでございます。結局、土が作物の土台の役ぐらいしかないことになってしまいうわけでございます。

人間の場合でも同じことでございまして、同じような能力を神様から与えていただけていまして、やはり十分に引き出していないと、その力が出てこないわけでございます。人間もやはりある程度色々練習をした、訓練をして、色々な能力を引き出されるわけでございますけれども、土の場合もやはり同じことでございまして、作物を全然育てたことのない土というのは、まだ十分に力を発揮できませんし、やはり何年間か作物を育ててその力が出てくるわけでございます。あるいは肥料をやつてしまうと、今後は作物もそこら肥料を吸うようになりますから、そうすると土はもう働かないで済むということになるわけでございます。

以前に申し上げたことがありますが、けれども、最近の子供さんが、鉛筆削り器があるために鉛筆を中々小刀で削ることができないというところがよく言われておりますけれども、中々小刀で削れど同じことであります。今の子供さんでも訓練すれば小刀が使えるはずですが、同じように、鉛筆削り器を与えてしまふと、もう自分自身がそういう小刀を使う必要がありませんから、いつまで経っても、その能力が引き出せないということになるわけでございます。それで神様がそういう働きを作つて下さった、その土というものについて御教え下さっている御教えを拝読させていただきます。

以下3面へ続く

土を尊び、土を愛し、土を汚さない

地上天国祭

最後の審判を切り抜け 地上天国に残して いただける人間を 1人でも多く作ること



御祭り始めのご挨拶をされる会長先生

これが私共信徒の使命



「信徒一人一人が100人の方をお導き
させていただくことを目標に」
などと話される会長先生

会長先生お話

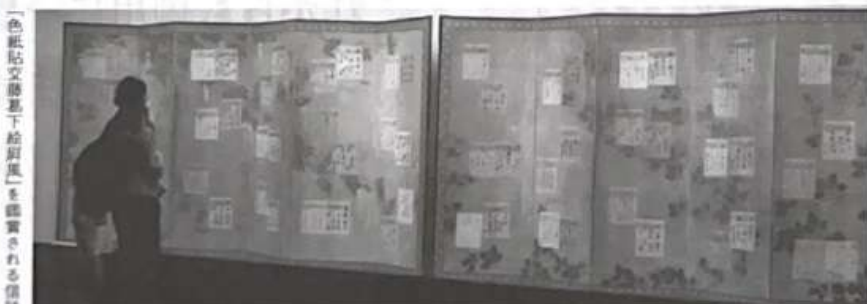
地上天国祭は6月15日の午
前7時30分と10時30分の2回
執り行われました。ご参拝の
後、会長先生は「地上天国祭
に関する御教え(総論第2
23頁)の抜粋を拝読して下
さり、次のようにお話しさ
しました。

「地上天国とは全ての人が
幸せな世界で、6月15日は将
来の地上天国誕生祭という一
大慶事と仰ってわれます。
またこの日を境に霊的活動が
促進され、今までは夜の世界
であったのが、昼の世界とな
り、悪が許されなくなつてく
る」と仰っています。これが最
後の審判であるわけでござい
ます。この最後の審判を無事
に切り抜けるように、

御守帳は御守帳の御力を与え
て下さいました。御守帳は病
氣を治すだけでなく、心の中
で、悪の働きを取って下
さり、地上天国にお導きさ
れる人間となさることを目標
とさせていただきます。多くの
方に御守帳をお授けさせてい
たこと、そして自分自身も
御守帳を頂くことが大切であ
り、御守帳を頂いているだけ
で、何もしていないと大変危
ないわけでもございます。最後
の審判を切り抜け、地上天
国に残していただける人間を
一人でも多く作ることで、これ
が私共信徒の使命でございま
す。

御教えでは世界をリードし
ているアメリカをまず救わな
ければいけないというところを
仰っておられますが、スケール
を大きく持つことが大切だ
と仰います。そこで信徒一人
一人がまず100人の方をお
導きさせていただくことを自
身に誓っていただくことが自
思います。自分達が救われる
ためだけに御守帳を頂いたの
ではなく、多くの方をお救い
するために御守帳をお許し下さ
ったわけでございます。そし
て私達はその御力の力を与え
ていただいているわけだと思
います。多くの方が御救い頂
かれやうにということをお祈り
させていただきます。そのため
の御力を少しづつでも願ませ
ていただきます(お祈り)

御守帳を奉唱される信徒の皆様



色紙貼文藝下絵展覧(を鑑賞される信徒

2面からの続き

人間をお造りになった時に、人間の
生命を保つに必要な食物を生産する役
割と能力を、神様は土に与えておられ
るわけでございます。従いまして、そ
の力を充分に発揮させてやれば良いわ
けでございます。そのためには「土を

尊び、土を愛し、土を汚さない」で、
土に余計ないろいろなものを入れないと
いうことでございます。それで一番土
が「充分に働く」ことができるわけで
ございます。もちろん、その土に作物
を年々生産していくと、その力が充分
に発揮されるようになるわけでござい
ます。先ほど申し上げましたように、

人間の場合と同じことが言えるわけ
でございます。
しかも、ここで明主様が仰っておら
れますように、だいたい稲なら稲、ま
た畑の物でも、だいたい同じ系統のも
のを作っているたほうが、その作物を
育てるのに、必要な働きが強く出てく
るわけでございます。まあ、あまりい

ろんな作物を作ると、かえって土とい
うのは充分働かなくなる。人間の場合
でもそうでございますね。ある一つの
専門の技術を深めていくと非常に素晴らしい
能力が発揮できるわけですから、
も、あれもこれもということになつて
しまうと、充分に能力を発揮できない
ということと同じでございます。

自然力というのは、本当はもつと目
に見えない、深い神秘的な御力であるわ
けでございますけれども、そういうこ
との一つの表れとして、自然農法の御
教えを頂いているわけでございます。
(一九八四年十一月一八日・
一九八五年十一月一八日)
(次号に続く)

以下6面に続く

「伝える時は、教会や新聞の事をそのままだと伝えました。すると意外にも興味を惹いてくれて、「これぐらいの火焔は大丈夫やぞ、またあと大きい怪我した時にやっほしい」と言われました。最近がなかなか伝えが上手で

